

報 告

第33回医学情報サービス研究大会 参加記

吉原 理恵

2016年7月2～3日、医学情報サービス研究大会 MIS33に参加いたしました。

MISは話には聞いていましたが参加するのは初めてで、緊張しながら長崎に到着しました。長崎はなぜか縁があり、ほぼ10年ごとに訪れている土地なのですが、行くたびに雨に降られ、毎回「長崎は今日も雨だった」という昭和歌謡を思い出します。しかしながら今回の長崎は梅雨真ただ中での開催にもかかわらず、大雨にはあわず（小雨にはあいました）天候に恵まれた2日間となりました。

1日目、印象に残ったのは「EBM ワークショップ：論文を効率よく読んでEBM実践しよう」です。英語の論文を読む、と聞くとかかなりハードルが高く、ついていけないのか不安ながらの参加でしたが、近畿病院図書室協議会（以下、KHLA）の皆さんと済生会の方も同じグループにいらしたので、心強い気持ちで参加することができました。

EBMを実践するために臨床の疑問を「PICO」で定式化するよう、まずシナリオを読み、おのおので定式化を行い、その後グループワークを行いました。そして論文からそのキーワードを読み解いていきました。どこまで理解し、ついていけたかとなると、さらなる勉強が必要ですが、論文の核となる部分を「PICO」でおさえれば抄録を理解できるのだと、少しハードルが下がった瞬間でした。英語というハードルは高いですが、ポイントをおさえれば「絶対無理！」

ではないのかもしれませんが。

2日目には大学や病院図書館、公共図書館、さまざまな館種の方の取り組みや研究を聞くことで、KHLAの研修会で得るものとはまた違うものを得ることができました。

特に印象的だったのは病院図書館と公共図書館との連携についてです。地域包括ケア、地域連携といったキーワード、館種の垣根を越えた活動や子どもと図書館とのかかわりなどが非常に面白かったです。皆さんの熱心さが伝わってきました。

2日目にはいくつかそういった取り組みの発表があり、図書館界の最新トピックについての知見を広めることができました。KHLAのリポジトリへの取り組みについて、事務局長の増田さんの発表もあり、皆さんも積極的に業務に取り組まれておられたことが非常に印象的でした。

閉会式後、長崎市立図書館の見学をさせていただきました。医学系データベースではJ-Dream IIIを契約されておられたのですが、より専門的な利用を希望される方に対しては大学や病院図書館を紹介されているとお聞きし、KHLA第138回の研修会で「県立図書館との取り組み」として鳥取県中央病院の取り組みを発表されていましたが、実際に公共図書館と病院図書室との連携が広まりつつある印象をより深めました。

長崎市立図書館は緑の壁面がとても印象的でした。オープン当初は植木もすごく小さかったようですが、8年が経ち、とても大きく育っていました。

よしはら りえ：社会福祉法人恩賜財団済生会 大阪府済生会中津病院 図書室